

Q2-2. 全身性エリテマトーデス (SLE) と診断されています。妊娠したときのリスクを教えてください。

全身性エリテマトーデス (SLE) は、英語で systemic lupus erythematosus といい、その頭文字をとって SLE と略して呼ばれます。自己免疫疾患 (膠原病) のひとつで、自分自身の体を自分自身の免疫系が攻撃してしまう病気です。一般的に、全身症状 (発熱、全身倦怠感、易疲労感など) と皮膚症状 (頬に出来る蝶が羽を広げている形に似た「蝶型紅斑」という赤い発疹や日光過敏症など) や関節症状 (手や指が腫れて痛む関節炎) がほとんどの患者さんに見られます。これに、さまざまな肝臓や腎臓などの病気や血管の病気が加わります。この内臓の症状が全くない軽症のタイプもあります。以前は妊娠しない方が良いとされていましたが、現在ではある条件を満たせば出産ができるようになりました。原則として、活動性がないこと、そしてできれば腎障害などの重篤な内臓病変がないことが条件です。妊娠、出産に関しては、まず内科の主治医とよく相談の上、産科、小児科、内科など各科の連携がとれた医療機関で慎重に管理されることをお勧めします。妊娠、出産が許可されていない病状で妊娠すると、人工透析、輸血や血漿交換が必要になる場合があります。最悪の場合には、病気が急激に悪くなって赤ちゃんばかりではなく、お母さん (妊婦さん) の生命に危険が及ぶ場合があります。また、妊娠、出産が許可されても、流産や早産などのリスクが健康な妊婦さんより高いという認識が必要です。さらに、高血圧や蛋白尿が出現する妊娠高血圧症候群や胎児の発育不良 (胎児発育不全)、胎児の元気がない状態 (胎児機能不全) が出現するリスクが健康な妊婦さんより高いです。そのため、早産せざるを得なくなり赤ちゃんが新生児集中治療室 (NICU) のお世話になることがあります。妊娠初期にはこの病気の症状が落ち着いていても、妊娠中期～後期に急激に悪くなる場合があります。定期的な産科と内科の両科の受診が必要です。なお、この病気を持っている妊婦さんから、どの位の頻度でこの病気の赤ちゃんが生まれるか、きちんとした報告がありません。もし、この病気に抗リン脂質抗体症候群 (APS) を合併している場合には、妊娠するとリスクがさらに高くなるといわれており、さらなる慎重な管理が必要です。代表的治療薬のプレドニン™ (ステロイド剤) は大量でなければ児への影響は気にする程ではありません。逆に自己判断での中止は危険です。また、以前は免疫抑制剤投与中の妊娠は良くないとされていましたが、近年服用しながら妊娠を継続される妊婦さんも増えてきました。ただし、ステロイド剤のみ服薬よりもさらに慎重な管理が必要です。

(森川 守)